

植田地域 まちづくりビジョン



植田地域ビジョン会議

平成30年7月

— 目次 —

はじめに	P2
第1章 地域の特性	
1 地理的特性	P4
2 地区の歩み・文化的特性	P4-6
第2章 地域の現状、市の施策	
1 土地利用の状況	P8
2 住民交流・社会・経済	P9-10
3 地域内の公共施設	P11
4 避難所・津波避難ビル・避難場所	P12-13
5 市民との協働によるまちづくりの取組	P14-15
第3章 人口推移と将来推計	
1 大分市の人口推移と将来推計	P18
2 植田地域の人口推移と将来推計	P19
3 大分市の人口ビジョン	P20
第4章 地域の課題分析	
1 私たちの住む地域について(SWOT分析)	P22-25
2 SWOT分析による植田地域の整理図	P26-27
第5章 地域の将来目指すべき姿(将来像)	
1 地域の将来に向けて	P30-31
2 地域の将来像	P32
第6章 将来像の実現に向けた取組	
1 これからのまちづくりに向けた市長への提言	P34-35
2 提言に基づく提案事業の一覧	P36-37
3 提案事業の役割分担	P38-41
4 提案事業の整理図	P42-43
<hr/>	
資料編	
1 策定経過	P46
2 植田地域ビジョン会議委員及び顧問、事務局名簿	P47-48
3 植田地域ビジョン会議設置要綱	P49-51

はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、今後、人口が減少に転じることが予測されており、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の実情や意向等を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、地域の活力維持・増進を図ることを目的に、市内13地域において、各地域の代表者等で構成する「地域ビジョン会議」を設置し、それぞれの地域の現状と課題などの議論を行い、市民主体のまちづくりを進めるうえで目指すべき将来像として「地域まちづくりビジョン」を策定しました。

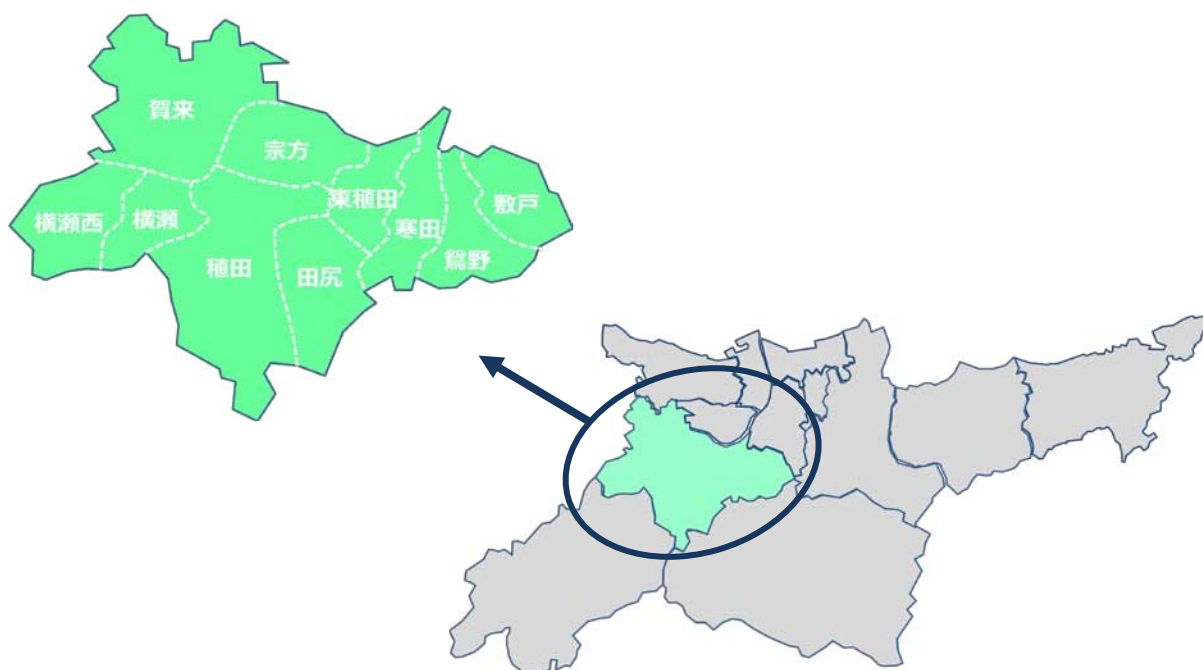
本ビジョンでは、植田地域ビジョン会議で取りまとめました「植田地域まちづくりビジョン」について、大分市長に提言します。

市内13地域における地域ビジョン会議

大分中央地域	大分東部地域	大分西部地域
大分南部地域	南大分地域	鶴崎地域
大南地域	植田地域	大在地域
坂ノ市地域	佐賀関地域	野津原地域
明野地域		

植田地域の対象校区

植田地域まちづくりビジョンは、植田、宗方、横瀬、横瀬西、東植田、田尻、寒田、敷戸、鶯野、賀来の10小学校区を対象としています。



大分市域図

第1章 地域の特性

第1章 地域の特性

1 地理的特性

植田地域は、大分市の南西部に位置しており、南は野津原地域及び大南地域、北は南大分地域、西は由布市挾間町、東は滝尾地域に接しています。また、地域の北側には大分川、中央には七瀬川の2つの河川が流れ、西部から南部にかけては霊山がそびえています。

国道10号や442号、医大バイパスなど市内中心部から各地域に向け、複数の幹線道路が扇状に伸びており、これらの幹線道路に沿って市街地が形成されています。

2 地区の歩み・文化的特性

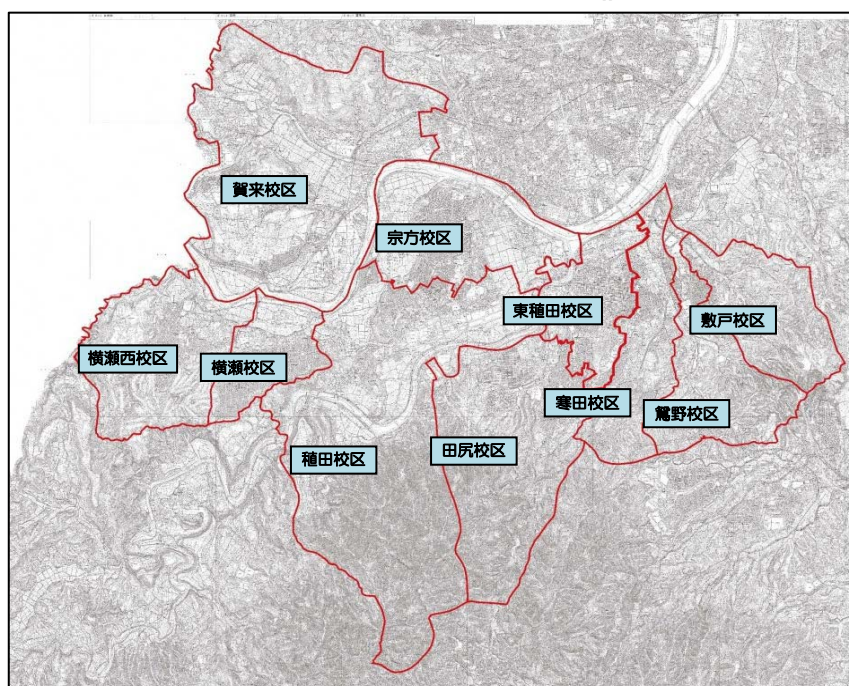
(1) 地区の歩み

古く奈良時代には、豊後国分寺がおかれ栄えた地域です。鎌倉時代には大友氏が守護となり、その名残として大友家にゆかりの深い史跡なども見られます。江戸時代は小藩分立政策の影響により、延岡、臼杵、熊本、府内、岡の各藩や天領に分割統治されていました。

明治4年の廃藩置県時には、30を超える村がありましたが、徐々に近隣の村同士の合併が進み、昭和30年に植田村、東植田村、賀来村が合併し大分村、昭和32年に大分町となり、昭和38年に現在の大分市に合併されました。その後、新産業都市として人口が増加するなか、植田地域には昭和40年代以降、多くの住宅団地が開発・造成され、急速に住宅地が増加しています。平成12年には、トキハわさだタウンが開店、周辺にも郊外型の大型商業施設が多数立地し、週末など多くの買い物客などでにぎわっています。

現在では植田、宗方、横瀬、東植田、寒田、敷戸、鷲野、賀来の8つの行政校区で形成され、自治会は140を数え、歴史的に多くの史跡を有する地域もあれば新興住宅地のみで形成された地域もあり、多様な自治会活動を行いながら今日にいたっています。

図一 植田地域位置図



(2) 文化的特性

植田地域の台地・丘陵地には縄文・弥生時代の遺跡群が散在しており、奈良時代には、豊後国分寺がおかれて栄えています。また、石造アーチ橋、萬年橋や「ふじ祭り」などで知られる西寒多神社は、平安時代前期に編纂された「延喜式神社帳」によると、豊後で唯一「大社」として載せられている神社です。

鎌倉時代には「植田荘」と呼ばれる広大な穀倉地帯が広がり、肥後熊本と「肥後街道」で結ばれるなど、交通・産業の面でも重要な地域でした。同じく、鎌倉時代には大友氏が守護となり、その名残として大友家にゆかりの深い史跡なども見られます。

【国指定】

図一地域の文化財



■高瀬石仏（東植田校区）
凝灰石を彫りこんだ石窟の中に彫り出された形式の磨崖仏として希少とされており昭和9年1月に国指定史跡となっています。

■豊後国分寺跡（賀来校区）
奈良時代半ばに聖武天皇の命により各国に建立された寺の一つの国指定史跡です。現在は七重塔跡が残り公園として整備されています。



■千代丸古墳（賀来校区）
古墳は、直径25メートルの円墳と考えられ6世紀後半から7世紀初頭頃に築造されたものです。石棚の前面には、三角形、四角形、人物、動物などが線刻で描かれ、大分平野で唯一の装飾古墳です。

【県指定】



■ 万年橋
(西寒多神社・寒田校区)

■ 丑殿古墳
(賀来校区)



■ 賀来神社卯酉の神事
(賀来校区)

■ 口戸磨崖仏附磨崖五輪双塔
(植田校区)



【市指定】

- 十一面観音立像 (賀来校区)
- 常楽寺文書 (東植田校区)



■ 西寒多神社神庫 (寒田校区)



■ 霊山寺山門 (東植田校区)



■ 大友頼泰墓 (東植田校区)

第2章 地域の現状、市の施策

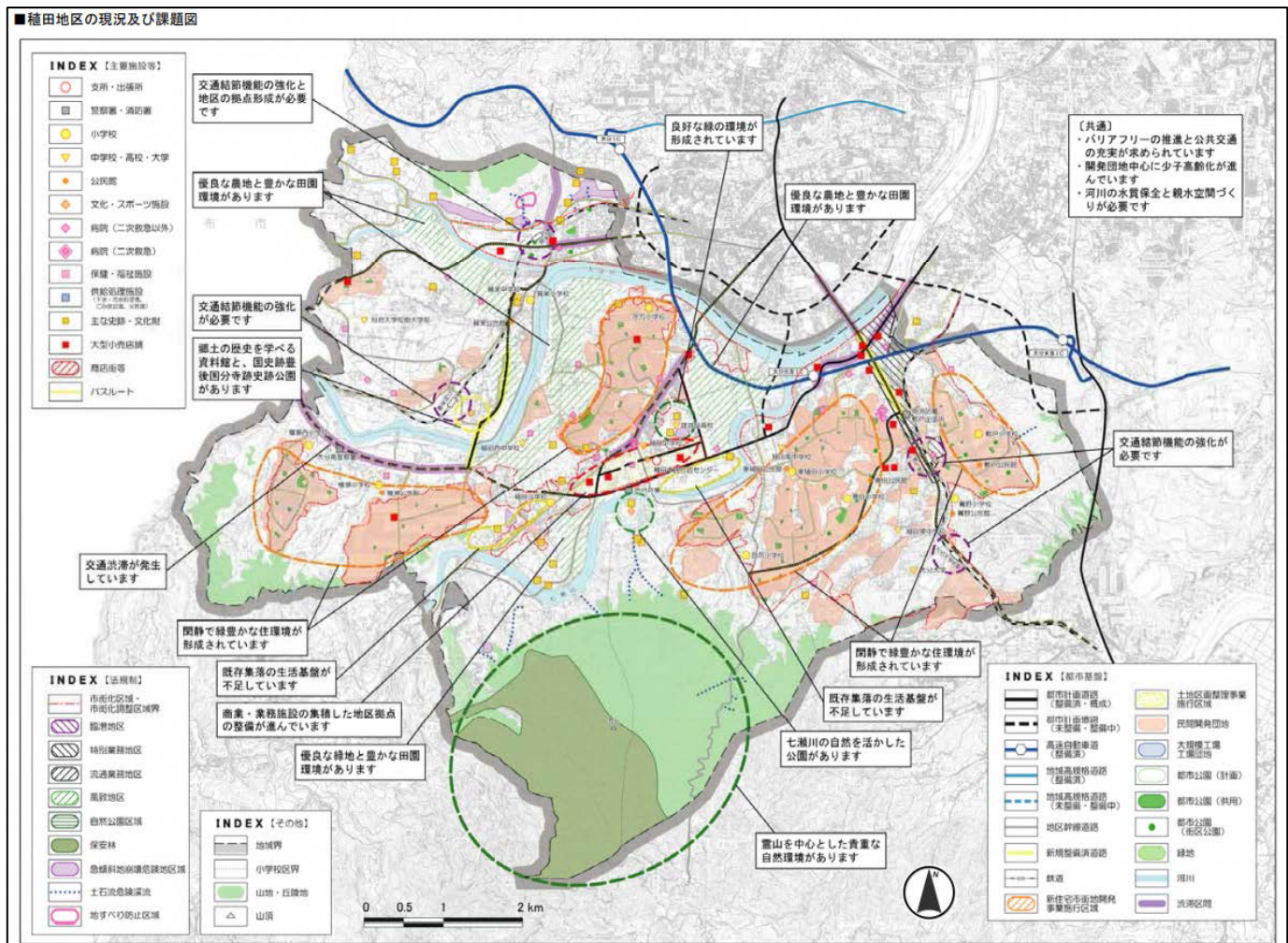
第2章 地域の現状、市の施策

1 土地利用の状況

新産業都市の指定に伴い、大分市の人口が増加するなか、植田地域の丘陵地に多くの住宅団地が開発造成され、現在でもベッドタウンとして多くの人口を抱えています。

また、国道10号や医大バイパスなど主要幹線道路沿いには、ロードサイド型の商業施設が数多く建ち、市街地を形成しています。それ以外の平地では、農業振興地域として広大な農地が広がり、水稻など栽培しています。

図一地域の現状及び課題図



出典：大分市都市計画マスタープラン

2 住民交流・社会・経済

(1) 住民交流

1) 現状とめざす方向性

「ななせの火群まつり」や、「賀来の市」、「西寒多ふじまつり」など地域の歴史あるまつりや史跡などが数多くあり、地域コミュニティの活性化につながっています。

2) 今後の課題

昔に造成された住宅団地では、地域住民の高齢化が進むとともに、地域の活力の低下がみられています。このような課題解決のため、富士見が丘団地や緑ヶ丘団地では行政と連携しながら「ふるさと団地の元気創造推進事業」に取り組んでいます。



■中央公園芝生化

<ふるさと団地の元気創造推進事業の概要>

地域活性化推進組織対策	地域活性化の推進組織の形成
地域リーダー育成対策	必要な知識を持った地域リーダーの育成
住み替え支援対策	子育て世帯に限定した家賃補助
	空き家・空き地情報バンク（住み替え情報バンク）
高齢者対策	団地内における高齢者の交流拠点づくり（公民館）
買い物支援対策	買い物代行、荷物持ち帰り代行、高齢者に利用しやすい電子的注文システムの検討
交通対策	自治体が主体となった交通モデルの検討
地域コミュニティづくり	公園の芝生化
	オープンカフェ等の企画
団地縮退への対策	地域コミュニティ空間の形成
団地の自立化	コミュニティビジネス等の推進による地区内雇用の創出

(2) 社会・経済

本地域は、昭和40年代から50年代にかけて、周辺の丘陵地を中心に団地開発による宅地化が進んだことから、地域の人口は右肩上がりが増加しました。人口の増加に伴って、幹線道路沿いには各種の商店・企業が立地、特に大型スーパーの進出により交通量も増加し、道路網の整備も進むなど日常の生活環境は大幅に変化してきました。

また、平成12年12月以降、大型商業施設が続々とオープンし、植田校区や賀来校区を中心に公共施設や各種医療・福祉施設などあらゆる面で都市機能が集中するなど住民の生活環境の向上につながっており、大分市の地区拠点として、商業・業務機能の集積が進められています。

交通面では、久大本線、豊肥本線など鉄道2路線や、国道10号、210号といった幹線道路や、大分自動車道光吉インターがあり、熊本、宮崎県方面とつながる交通の要衝でもあることから生活の利便性が高い反面、車の交通量が多く交通事故が多発するといった課題も抱えています。

このように丘陵地の宅地化により、現在では農家世帯は減少し、勤労者世帯を中心とした社会へと変化しているとともに、高齢者のみの世帯が多くなり、公的福祉サービスへの期待も高まっています。

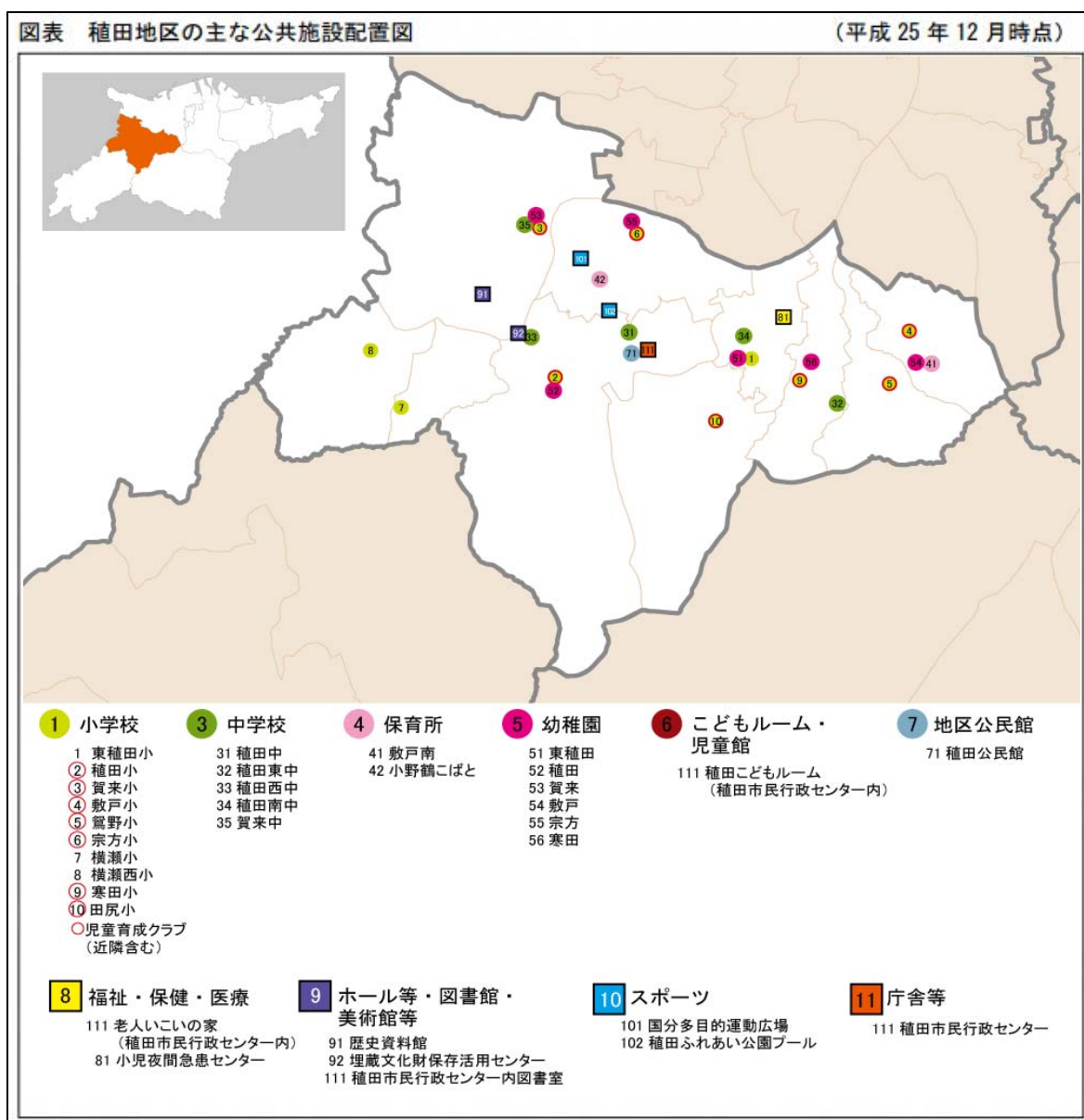


3 地域内の公共施設

穂田地域は支所管轄地域の中で最も人口が多い地域であり、穂田市民行政センターは鶴崎地域と同じく、他の市民センターと比べ行政窓口の機能などが拡充されているほか、アルメイダ病院や大分三愛メディカルセンターなど医療拠点となる大規模な病院をはじめ、地域内には多くの医療機関が立地しています。

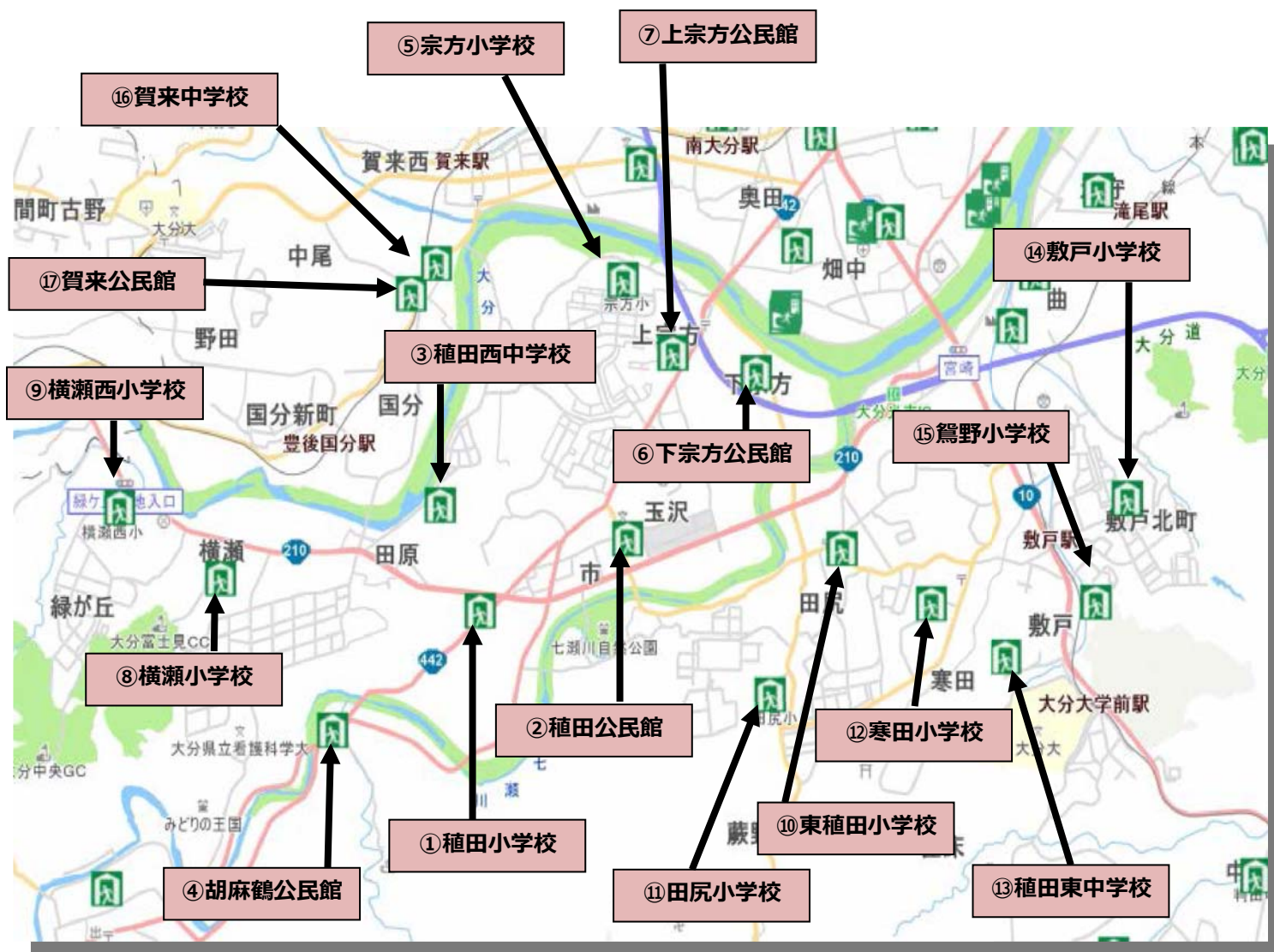
また、七瀬川自然公園は、「ななせの火群まつり」などのイベントが開催できる広場やスポーツができるグラウンドが整備されているほか、自然の河辺で子どもたちが自由に遊べる環境が整備されています。そして七瀬川の上流である野津原地域では現在、ダム建設が進められており、治水や水需要の確保のほか、美しい景観による観光振興などが期待されています。

図一公共施設配置図



4 避難所・津波避難ビル・避難場所

同地域には指定避難所が17箇所設置されています。



表一地区の避難所一覧

校区	施設名	避難可能人員	
		一時	避難所
植田	①植田小学校	886	443
植田	②植田公民館	639	319
植田	③植田西中学校	886	443
植田	④胡麻鶴公民館	100	50
宗方	⑤宗方小学校	886	443
宗方	⑥下宗方公民館	165	82
宗方	⑦上宗方公民館	247	123
横瀬	⑧横瀬小学校	886	443
横瀬西	⑨横瀬西小学校	886	443
東植田	⑩東植田小学校	946	473
田尻	⑪田尻小学校	886	443
寒田	⑫寒田小学校	886	443
寒田	⑬植田東中学校	886	443
敷戸	⑭敷戸小学校	1,049	524
鴛野	⑮鴛野小学校	886	443
賀来	⑯賀来中学校	981	490
賀来	⑰賀来公民館	126	63

5 市民との協働によるまちづくりの取組

(1) 地域まちづくり活性化事業

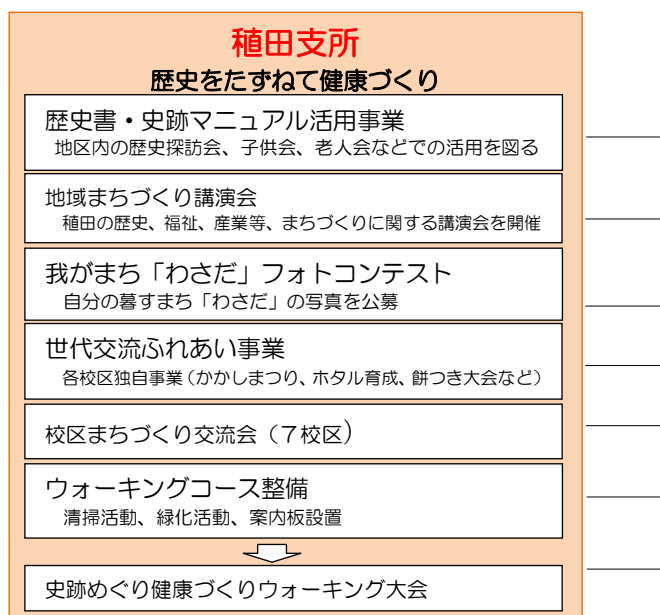
地域課題解決のための事業を地域住民が主体的に考え、市民と行政が協働で取り組み、課題解決を図るとともに地域活性化の新たな魅力創出につなげることを目的とした事業です。

【平成 28 年度計画】

植田地域

テーマ：歴史をたずねて健康づくり

内 容：歴史活用、まちづくり講演会、ふれあい事業



■史跡めぐり健康づくりウォーキング大会



■地域まちづくり講演会



■我がまち「わさだ」フォトコンテスト



■かかしまつり

(2) 植田地域のまちづくり活性化事業の展開

地域の皆様と行政が一緒になって事業に取り組むことで、地域の活性化を目指すものです。

1) 歴史書・史跡マニュアル活用事業

地域の歴史書(自治会史)の活用。21年度作成の史跡マニュアル(校区活動書)と併せて活用。地区自治会の歴史書として、自分の地域の歴史再発見など地域の活性化のため、地区内の学校、子供会、老人会、歴史探訪会などいろいろな方面での活用促進。

2) 地域まちづくり講演会

植田地域のまちづくりに関する講演会を開催する。講演の内容は、植田の歴史に関することや福祉の面でのまちづくり、産業の面でのまちづくりなどとし、それぞれの専門の方を講師とする。

3) 我がまち「わさだ」フォトコンテスト

自分が暮らす我がまち「わさだ」の写真を一般公募し展示する。写真の対象は伝統行事にとどまらず、現在の地域住民の融和、コミュニティ再生を目的とした小規模なものまで含み、地域の活力作りの紹介・増進を目的としている。

4) 世代交流ふれあい事業

各校区ごとのスポーツや郷土芸能等各種行事を通じて、世代間の交流を図り、住民の健康づくりや地域の伝統・自然に関心を持ち、郷土を愛する心を育てる場を提供する。

5) 校区まちづくり交流会(7校区)

地域で様々な活動をされているまちづくりの推進役が、それぞれの取り組みを互いに情報共有する中、連携協力して横断的に活動しやすい環境づくりを創出するため、各校区ごとに開催する。

6) ウォーキングコース整備 → 史跡めぐり健康づくりウォーキング大会

各校区ごとのウォーキング大会開催にあたり、コースの整備(草刈や草花の植栽等)を行い、利用者の利便を図るとともに地元環境整備についての意識の向上に役立てる。→植田地区の8校区で開催。校区自治会、体協、歩こう会などによる自主的な大会を企画実施。参加者にはボランティアによる手作りの炊き出しを行っている。



穂田市民行政センター



ななせの火群まつり

第3章 人口推移と将来推計

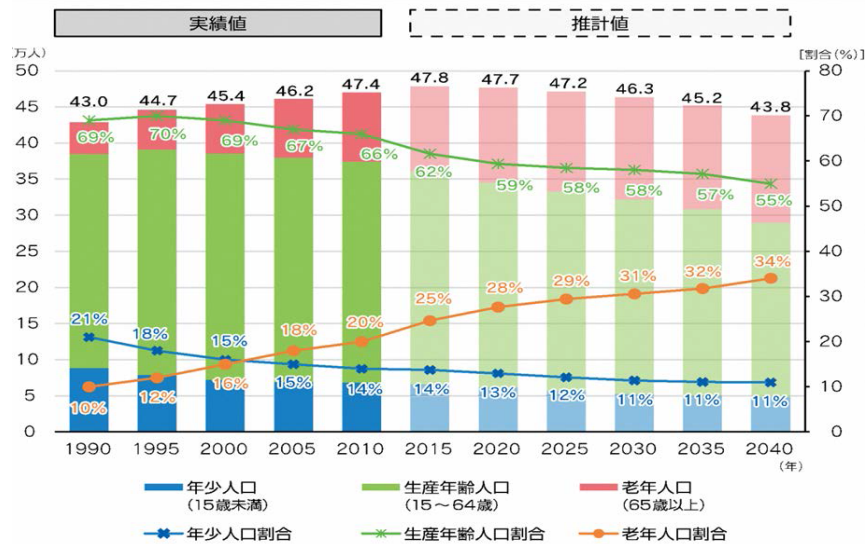
第3章 人口推移と将来推計

1 大分市の人口推移と将来推計

(1) 総人口・年齢3区分別人口の推計

2010（平成22）年国勢調査を基本に、2013（平成25）年3月発表の社人研の数値を用い、将来人口を推計しています。

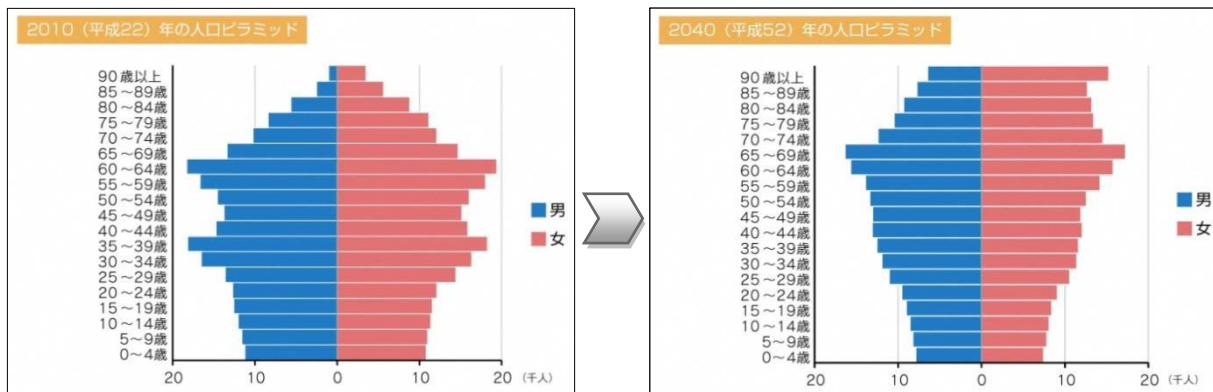
この推計によると、このままの状況で人口が推移していけば、2010（平成22）年から2040（平成52）年までの30年間で、本市の総人口は約3.6万人、生産年齢人口（15歳～64歳）は約6.5万人減少すると予測されています。一方、老年人口（65歳以上）は約5.3万人増加し、高齢化率は34%に達すると予測されています。



※2010（平成22）年まで総務省統計局「国勢調査」（2015（平成27）年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計）
2000（平成12）年以前の人口は、旧佐賀関町、旧野津原町の人口を含む

(2) 人口ピラミッドの推移・推計

本市の総人口の減少や少子高齢化の進展に伴い、年少人口（15歳未満）を含む若い世代の人口が減少し、本市の人口ピラミッドは、「壺型」に向かっています。

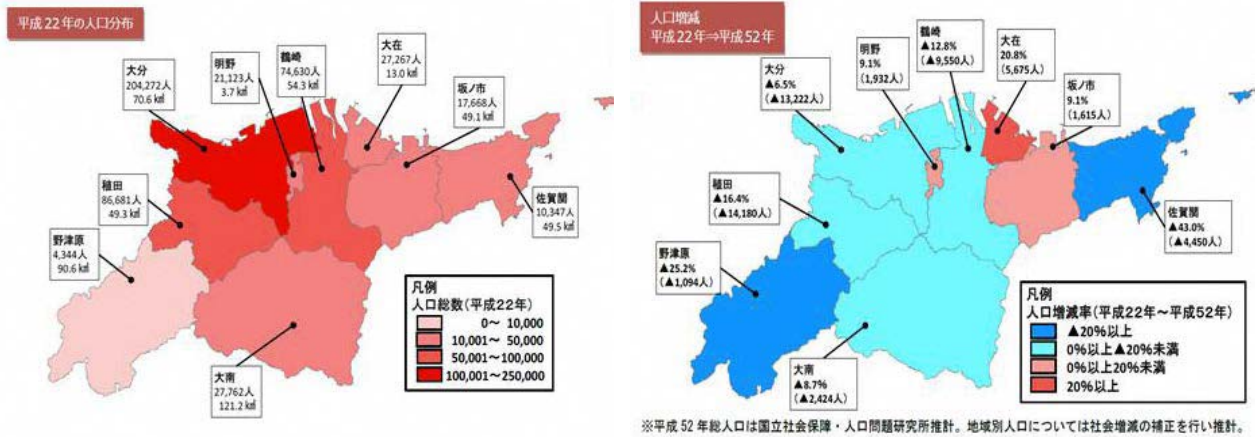


※2010（平成22）年の総人口は総務省統計局「国勢調査」
※2040（平成52）年の総人口は国立社会保障・人口問題研究所推計

2 穂田地域の人口推移と将来推計

(1) 大分市の人口動向（地域別の将来人口）

<2010年(平成22年)～2040年(平成52年)の地域別の人口推計>



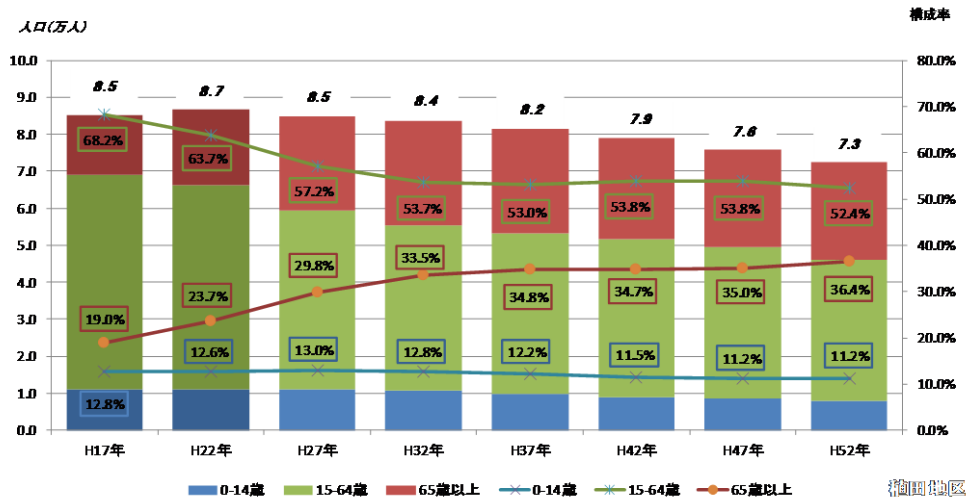
※平成52年総人口は国立社会保障・人口問題研究所推計。地域別人口については社会増減の補正を行い推計。

○本市の総人口の減少に伴い、多くの地域で人口増加が見込めない状況です。

○佐賀関地区(△4,450人 △43.0%)、野津原地区(△1,094人 △25.2%)においては、地域人口に対する減少率が特に大きくなっています。

○同じ市内でも地区ごとに年齢構成や人口動態が大きく異なっているため、課題の抽出や対策について、それぞれの地区ごとに検討する必要があります。

(2) 穂田地域の人口推移・将来推計



○穂田地域の人口は、市の総人口の約18.3%を占めています。2010年(平成22年)から2040年(平成52年)にかけて人口が減少する見込みで、減少率(約△16.4%)は本市全体(約△7.6%)より高くなっています。

○高度経済成長期に数多く造成された団地に居住する人の高齢化が進むことで、市内の他の地域より急速に人口減少が進むことが見込まれています。

○年少・生産年齢人口の減少に加え、2025年(平成37年)以降は高齢人口についても減少に転じていく見込みです(人口減少第2段階)

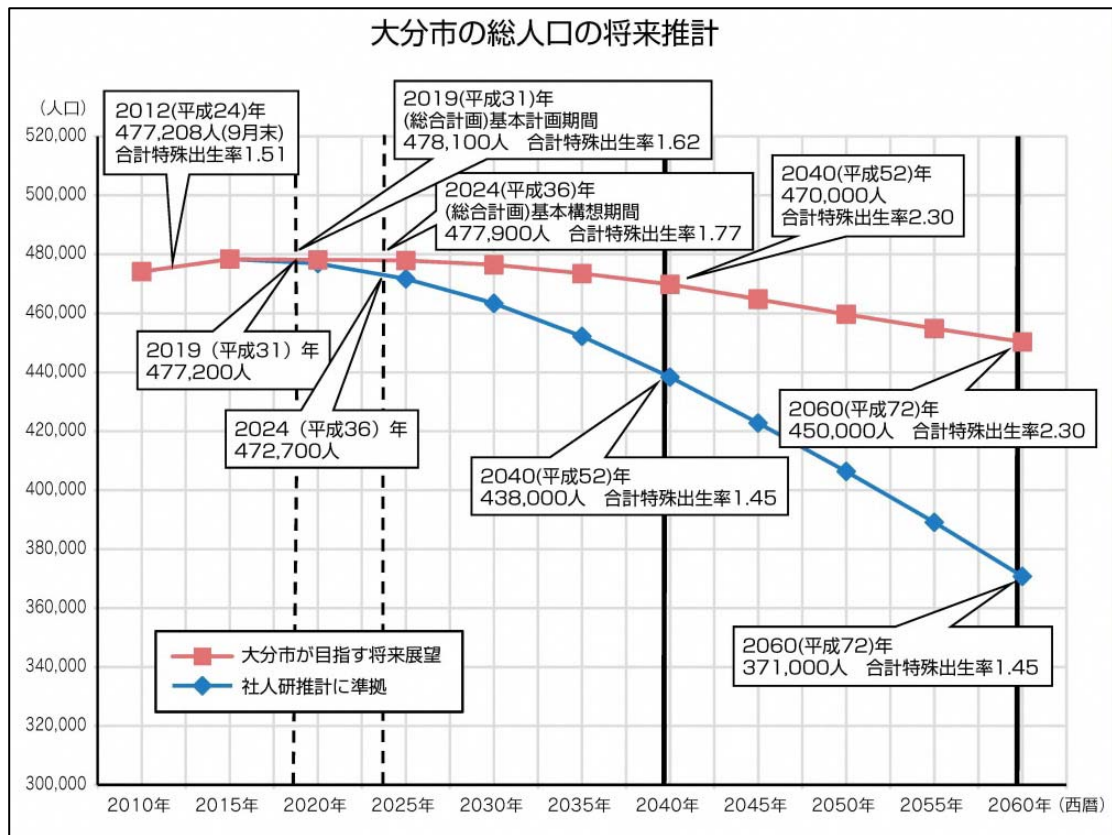
3 大分市の人口ビジョン

本市においては、国や大分県の将来展望を勘案するなか、県都大分市としての責任を果たすため、自然増については、結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現に向けた取組のさらなる充実を図ることにより、2030（平成42）年までに合計特殊出生率を2.0程度まで高め、2040（平成52）年には2.3程度まで高めることとします。

また、社会増については、今後も東京圏を中心とした大都市への人口流出が懸念されることから、大分県全体を鑑みるなか、大分県外から、特に東京圏を中心とした大都市からの転入者を増やすことを目指していきます。

このように自然増対策と社会増対策に取り組むことにより、人口減少に歯止めがかかり、2060（平成72）年の本市の人口は、45.0万人程度となります。

大分市が目指す将来展望 2060（平成72）年 人口45万人程度



第4章 地域の課題分析

第4章 地域の課題分析

1 私たちの住む地域について（SWOT 分析＊）

植田地域ビジョン会議では、委員が地域の現状について、どのようなイメージを抱いているのかをはじめ、地域の魅力や課題などについて、自由に意見を出示てもらい、その意見を「強み」「弱み」「機会」「脅威」といった4つのカテゴリー別に分類整理し、地域の特徴や将来への課題などをSWOT分析の手法により体系的に整理しました。

＊SWOT分析とは、

地域特性を内部環境、外部環境で4つのカテゴリー「S（強み）・W（弱み）・O（機会）・T（脅威）」に分類整理する方法です。

多岐にわたる意見を体系化するのに適しており、地域の持つ強みや弱み、その地域が置かれている環境などを掘り下げるのに有効なツールです。



強み (Strength)	
<p>①各種の盛んな地域交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> • さわやか健康運動が盛ん • 民生委員さんが活躍している（東植田） • 青少協がよく見回りをしている（東植田） • 小、中学校との懇談会が多い（東植田） • 小、中学生がよく挨拶できる（東植田） • 中学校にエレベーターを設置している（バリアフリーの推進） • 火群まつり、賀来の市など地域の祭りがさかん • 地域コミュニティの充実 	<p>②自然や各種施設整備が整っている生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「住むエリア」として大分市内で No.1 の環境 →山、川、自然 • 堤防に菜の花を2年続けて植えている • 新規住居用のスペースも多い • 大規模な商業施設の近隣に自然があり、その調和が地域の魅力 • 公園やキャンプ場、プール等 • 豊富な史跡 • 医療施設・商業施設等の社会インフラが整備されている • 交通利便性が高い • 小中一貫校や大学などの充実した教育環境 • 安全性が高いまち • 整備された道路 • 塚野鉱泉 • 県民の森
弱み (Weakness)	
<p>①公民館の老朽化等施設整備の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公民館が少ない • 公民館が地震時使用禁止になる • 東植田公民館が築63年で老朽化している • 東植田地区公民館（植田第2公民館）の新設 <p>②求められる各種高齢者対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3階以上のアパート等に住んでいる単身高齢者への対応としてエレベーターの設置が必要 • インターネットのみを活用した情報発信は高齢者に優しくない • 災害発生時に指定避難所と自宅が遠い場合など高齢者が一時的に避難できる場所がない <p>③満足度の低い公園の整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多くの小さな公園には魅力的遊具が少ないため、利用が少なく、また管理が不十分である 	<p>④商業の停滞等による買い物弱者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 買い物難民への対策が必要 • 団地造成時に団地内にあったスーパーが近年は撤退しており、自動車が運転できない住民は買い物に苦慮している • 移動販売車（南大分の生協）に毎週水曜日に来てもらっているが、今後、ガソリン代や人件費の補助が無いと継続してもらえないのではないかと不安である <p>⑤地域が求める各種未解決課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 山林を開発した団地では、伝統・歴史あるイベント・史跡もなく、地域を愛するといった郷土愛に欠ける • 郊外型団地や農振地域、高齢化の問題が植田地域の大きな課題である • 古い家が多い <p>⑥狭隘道路の未整備</p> <ul style="list-style-type: none"> • 道路狭小部分がある（田尻～八幡田）

機会 (Opportunity)

①健康増進を図るための各種施策の推進

- 各世代別の健康保持策・長生きで幸せ！
- 健康づくりのプール・散歩コースの整備
- 予防医学のための健康対策：フィットネスクラブ
- 健康で長生きできる健康づくりを
- 高齢者が外に出るきっかけ作り・在宅医療の充実
- いつでも病院にかかれる医療体制
- すぐ119番対応ができる救急体制を

②求められる地域活動の施策の推進

- 困った時に頼める隣近所・親子2世代が生活できる町づくり
- 地域で三世代間の交流・地域の皆が親戚みたいな地域
- 多世代によるコミュニティが望ましい、団地の再編、多世代住民の構築（教育、介護、消費にも好効果）
- 地域の子どもたちを守り、交流していく中で知恵や知識を伝える
- 住民皆が幸せな生活がおくれる
- 女性や若い人が社会活動に参加できるよう、世代間交流を活性化させる

③政策や施策、施設整備等求められる子育て支援の充実

- 子育て支援重視！・支援学校整備・児童館がほしい
- 子どもは15～20年後には、生産・労働年代になり、社会基盤を支える礎になる。子育て支援を充実させる事で人口減少をくいとする
- 子育ての充実 福祉学園の散歩コース
- 幼稚園、保育園の充実・子育ての支援（共働きの家庭）

④農業の活性化に伴う各種施策の推進

- 担い手（農業）をつくるための支援・生産業の人手がほしい・耕作放棄地＋空き家を活用することで農者（若い人）に帰ってきてもらいたい
- 水田保全・緑豊かな稲田を守り、大切な知識や知恵を伝えていく
- 兼業農家が育つような仕組み、取り組みを進めていく必要がある
- 水田の保全について、地域の農業を守るという点で考えてほしい
- 耕作放棄地に対して何らかの対策を（法的に）・農振地域の法的な緩和を（高齢者対策として）・農業関係者が育つ環境が必要（収入的にも）

⑤各種自然災害対策の推進

- 避難場所確保（賀来）、福祉施設も一次避難所として地域連携する
- 消防団の訓練場がほしい・避難場所の整備
- 防災組織の充実・防災対策として川の土手の整備

⑥交通網、道路整備の促進

- 植田地区の幹線道路の整備・賀来橋の架けかえ
- 賀来～庄の原拡幅（2車線化）
- 雄城台高校に支援学校方面から道をつなぐ

⑦ななせ川公園の利活用

- ななせ川公園の河川プールをつくる（再整備）
- ななせ公園に集会室を・ななせ川の保全、大分川の保全
- ななせ川の清流を守る！若者があふれるまちづくり

⑧必要とされるバス機能の充実

- 敷戸駅前バス停作る
- 敷戸から植田タウンへのバスの増便
- 交通整備（コミュニティバス）は必要

⑨自然環境の保全

- 自然を生かす 山、川、田
- 美しい自然を守る環境づくりが大切
- 自然が豊かな一方で、自然災害リスクがある

⑩将来を担う子どもの教育環境の充実

- 学習場がほしい
- 教育を充実させる事で優秀な人材を多く育て、生産性を向上することにより、豊かな基盤を築く
- 日本の未来を担う子どもの育成
- 空き家を活用すれば子どもの教育場所に利用できる

⑪地域経済活動の活性化のための施策の推進

- 若者の創業支援（全産業対象）
- 農業の補助をもっとしてほしい
- 商業、サービス業を増やす事で雇用を増やし、労働者が生活しやすく、子どもを産みやすい環境を構築

⑫成熟社会をめざす社会教育の充実

- 社会教育と生涯学習の振興
- 健康寿命延長のための生涯学習振興
- 成熟した社会に展開（商業モール等の進出の再考）消費することに幸せを感じる意識を転換
- 高知識、技能を有するベテランが活躍できる地域社会（受け入れが重要）

⑬日常生活に支障をきたす危険箇所の安全対策

- 危険交差点の安全対策・地域の危険箇所の再認識と事前対応

⑭人口増加に伴う課題の解決

- 人口を増やす 住みたくなる町・区画整理

⑮子ども・高齢者が住みやすい環境づくり

- 子ども、高齢者が一緒に集える場所・要支援者との日頃の連携！
- 多世代交流の推進など高齢者が活躍できる環境づくり
- 空き家、空き地は少子高齢化対策として、子育て世代が住みやすい環境づくりに寄与できる

⑯無縁墓地問題の解消

- 無縁墓地の管理を地域ですすめたい

⑰公民館の建替、新設の検討

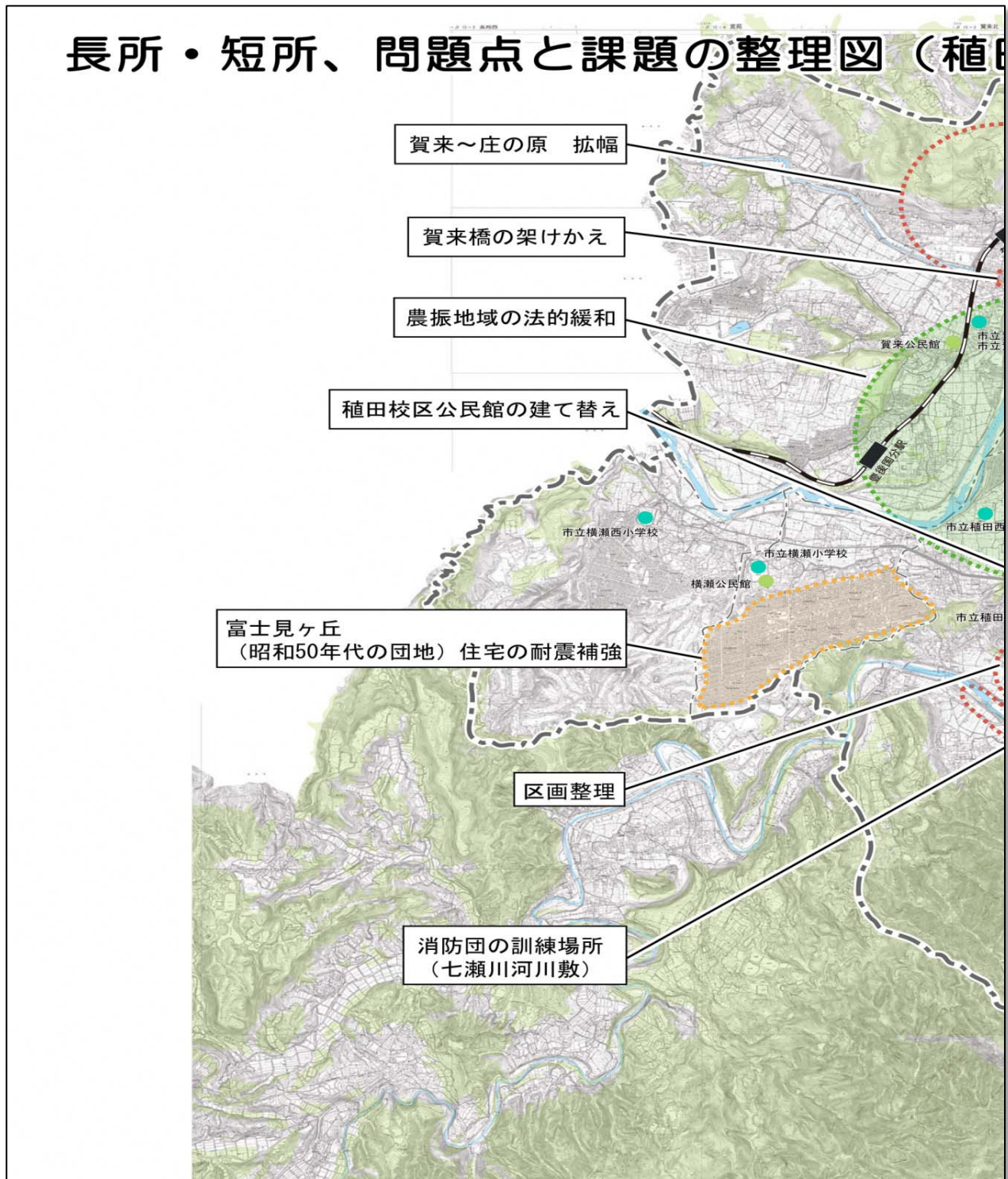
- 公民館の建替、整備の推進
- 校区公民館の建替の推進

脅威 (Threat)	
<p>①求められる自然災害の対応と施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> • がけ崩れの恐れがある箇所がある（田尻） • 超高齢社会と少子化の中で安全安心のために、防災危機管理対策が最重要である • 南海地震、東南海地震に対応できる危機管理 • 住宅の耐震補強で、災害による被害を防ぎやすくなり、まちづくりが後退することなく前へ進めます（活性化） • 地域コミュニティの衰退による防災、防犯意識の欠如 • 南海トラフ大地震の発生 耐震化対策 • 穂田地域には古い家屋が多く、耐震補強などの対策が必要だが、自己負担が多く啓発してもなかなか実施に至らない（これらの住宅所有者に個別に通知を出せないか） • 大雨の際に消防団が水門の開閉を行っているが、穂田地域でも鬼怒川で起こったような水害が起こり得ることについて認識しておいてほしい。 • 超高齢化のため地域の行事を行う際、参加者が少なくなっており、イベント開催の意味が希薄化 • ため池を整備（美）し生活環境を良くする <p>②少子高齢化に伴う負の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人口減少は街も衰退→人口増加の為にはどうするべきか？！ • 少子高齢化が急速に進行 • 高齢者が有料老人ホームに入らないと生活できない状況を解消していかなければ、高齢化問題は解決しないと思う 	<p>③社会保障制度への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会保障制度の充実：このままでは介護医療制度について予算が充分確保されない • 社会保障制度の充実：高齢者対策の充実、医療制度、介護制度 <p>④空き家・空き地対策の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 空き家、空き地対策 • 団地内でも空き家増加が想定されるが、例えば空き家になった家を隣人の子供世帯が購入できるようにするなどの取組が今後、必要である • 若年層が農業をしないため、耕作放棄地が発生するなど周囲の田畑に悪影響を与えている <p>⑤農村振興に求められる課題への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> • 農家の子どもが親元の実家に戻り、家を建てようとしても農振地域なので家を建てられない <p>⑥不審者の出没</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不審者出没情報がある（地域コミュニティの希薄化）

2 SWOT分析による植田地域の整理図

委員全員から出された、地域の魅力や課題などの意見について、植田地域の地図で位置関係を整理すると以下のとおりになります。

地域ビジョン会議では、これらの意見を基に、次章以降の将来像の整理や将来像実現に向けた具体的な取組などについて、議論・検討を行いました。





東院（賀来）の田園風景



賀来の市

第5章 地域の将来目指すべき姿 (将来像)

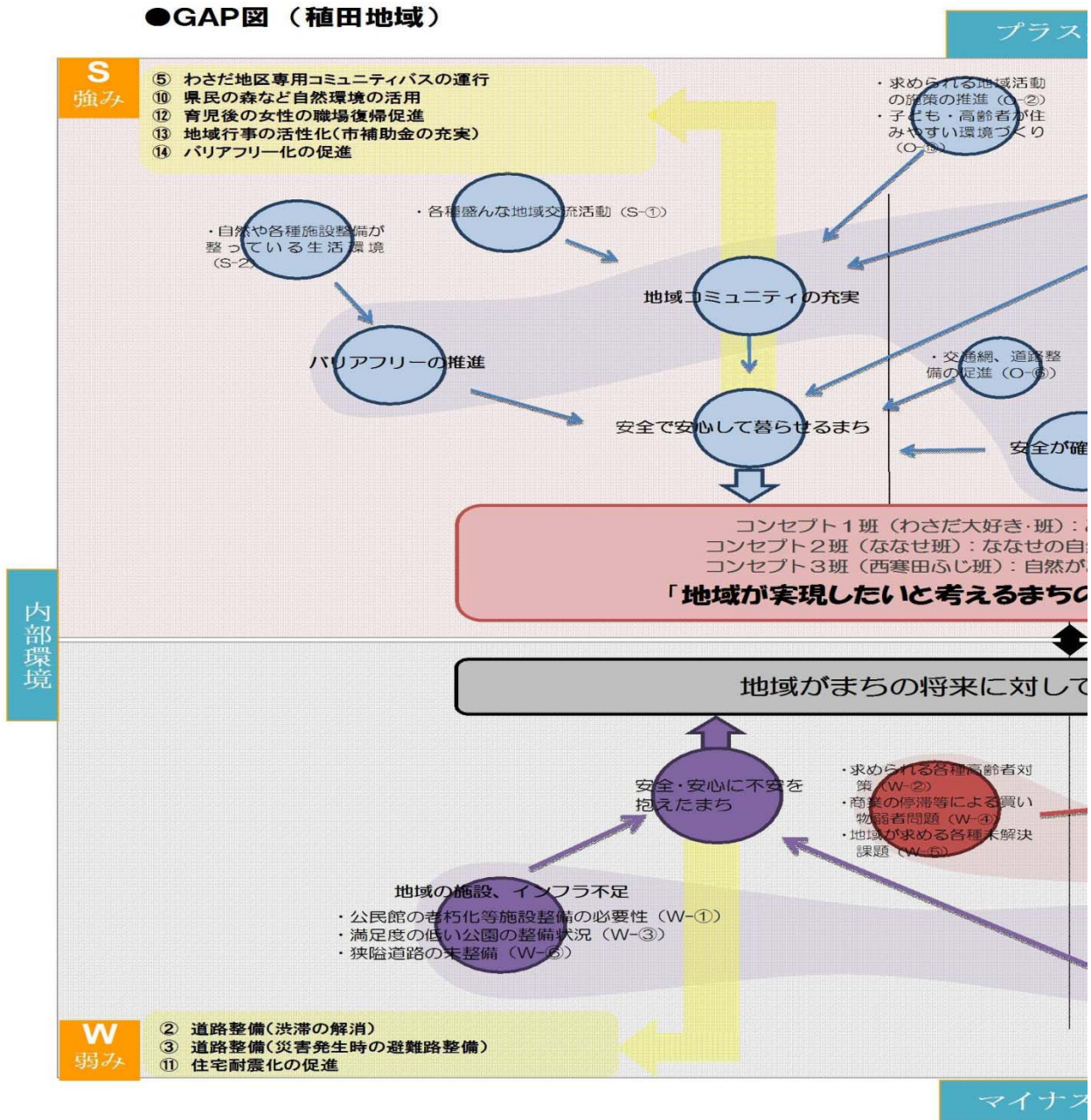
第5章 地域の将来目指すべき姿(将来像)

1 地域の将来に向けて

第4章の「地域の課題分析」では、グループワーク形式により委員相互で意見交換を行う中、出された意見についてSWOT分析の手法によりその内容を体系的に整理しました。

地域ビジョン会議では以下の図（GAP図）を用いながら、前章のSWOT図で整理した意見を、プラス要因とマイナス要因でまとめ、関連づけを行いながら「地域が実現したいと考えるまちの将来像」（まちづくりのコンセプト）を導き出しました。

●GAP図（穂田地域）

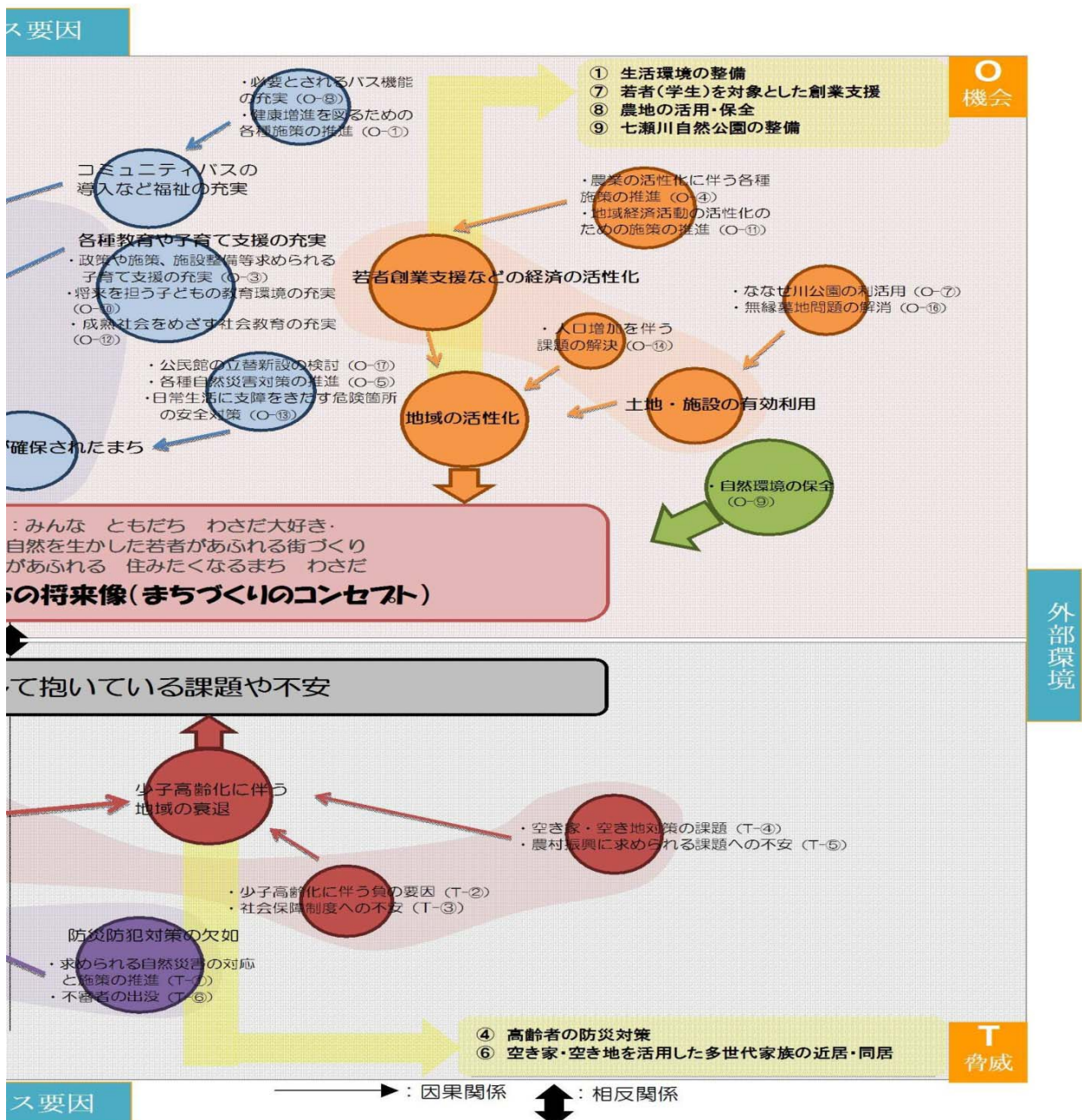


下の図は、プラス・マイナス両方の要因を、それぞれの因果関係や相反関係を整理したものです。

プラス要因については、まちの将来像（コンセプト）を導き出すために、前章の意見を関連づけることで、「安全で安心して暮らせるまち」と「地域の活性化」、「自然環境の保全」を関係する要因として整理しました。

「安全で安心して暮らせるまち」では、バリアフリーの推進や地域コミュニティの充実、各種教育や子育て支援の充実等が求められており、「地域の活性化」の推進では、若者創業支援などの経済の活性化や土地・施設の有効活用などが求められています。

マイナス要因については、安全・安心に不安を抱えたまち及び少子高齢化に伴う地域の衰退が懸念され、不安要因となる因果関係が構成されています。



2 地域の将来像

今後、少子高齢化が進行し本市の人口もさらに減少が予想される中、行政には福祉をはじめとする市民に身近な施策の充実や地域コミュニティの活性化、効率的な行政運営など、諸課題への対応が求められています。

植田地域ビジョン会議では、これまで私たちの住む地域の現状や課題を整理しながら、将来のまちづくりについて議論を重ね、以下の「地域の将来像（まちづくりのコンセプト）」を導き出しました。

<地域の将来像（コンセプト）>

自然があふれる 住みたくなるまち わさだ

【将来像決定の理由】

地域の将来像（コンセプト）には、自然があふれ、火群まつりなどの素晴らしい行事があり、閑静な住宅街が多く生活環境の良い住みやすい地域として、その地域の強みを活かし、素晴らしい植田地域を盛り上げていきたい思いが込められています。



第6章

将来像の実現に向けた取組

第6章 将来像の実現に向けた取組

1 これからのまちづくりに向けた市長への提言

これまで、地域まちづくりビジョン策定の取り組みを通じ、改めて自らの住む地域を見直すとともに、魅力あふれ、活力に富んだ地域をつくるために、地域と行政が一緒になってどのような取り組みを進めていくべきか議論を深めてきました。

まず、第1章から第3章で地域の特性や市民協働のまちづくり、将来人口推計など、地域の現状やこれまで取り組んできたまちづくりについて振り返るとともに、第4章ではグループワーク形式を通じて地域の強みや弱み、機会や脅威など再度、自らの住む地域を客観的な分析を加える中で見直してきました。そして、第5章において私たちの地域のあるべき姿（将来像）とその実現に向け必要となる基本的な取り組みを検討してきました。

わたしたち穂田地域の住民が描く地域の将来像実現のため、これからのまちづくりのために、次のとおり市長に提言いたします。



これからのまちづくりに向けた市長への提言

提言1：誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備

住宅の耐震化やバリアフリー化の促進、非常時に備えた避難路の確保など防災面での対策を着実に行うとともに、放置されているため池などの危険箇所や渋滞が発生している狭隘道路などの整備を推進することにより、誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備が望まれる。

提言2：快適で魅力あるまちづくりの促進

少子高齢化の進行が見込まれるなか、コミュニティバスの充実など高齢者が安心して暮らすことのできる環境及び体制の整備を進めるとともに、大規模住宅団地を中心に増加している空き地・空き家を有効活用するなどあらゆる世代を地域に呼び込むことで地域行事の活性化など多世代交流の促進を図り、地域内で支え合えるまちづくりが望まれる。

提言3：地域資源を活用した子育て環境の整備

植田地域には霊山や七瀬川、県民の森など多くの自然があり、子育て世代を呼び込むためには、家族で楽しむことのできるこれらの資源を活用し、レクリエーション施設や健康づくりのための施設整備、自然を活かした教育環境を整備するとともに、女性が育児休暇から安心して職場復帰することができる子育て環境を充実することが望まれる。

2 提言に基づく提案事業の一覧

地域ビジョン会議では、地域の将来像を実現していくために、地域と行政が一緒になって推進していく取組みを検討しました。これらの取組みをはじめ、地域住民の多様なニーズを市政に反映させるとともに、市民と行政が一体となって、個性を活かした魅力ある地域づくりを進めていくことを希望します。

分類	番号	取組事業名
提言 1	①	生活環境の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・景観が悪い場所や危険性の高い場所の整備を行う（例：放置されている無縁墓地や決壊の恐れのあるため池） ・整備した場所を地域活動の場として活用していく
	②	道路整備（渋滞の解消）
		<ul style="list-style-type: none"> ・田尻～八幡田間の道路拡幅工事および田尻橋の架け替え ・賀来橋の架け替えを含む賀来橋付近の道路拡幅 ・賀来～庄の原の道路2車線化
	③	道路整備（安全安心な道路整備）
		<ul style="list-style-type: none"> ・敷戸弾薬庫付近の住民が災害や有事の際に迅速に避難するための道路拡幅 ・歩道や街路灯の整備など歩行者にやさしい道路整備を進める
④	高齢者、障がい者等の防災対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅の居住環境を整備（エレベーター設置など）してもらい、若年層の居住者を増やすことで災害時にも円滑に避難できる体制を構築する ・災害時の備蓄物資確保の取組や一人暮らしの高齢者、身体障がい者への支援体制の確保 	
⑤	住宅耐震化の促進	
⑥	住宅耐震化の促進	
	<ul style="list-style-type: none"> ・旧耐震基準の住宅所有者に対して、市の補助金の活用や耐震補強を実施しないことによる危険性をもっと広報し、安全な住宅を増やす 	
提言 2	⑦	わさだ地区専用コミュニティバスの運行
		<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の拠点機能（バスセンター等）強化や利便性向上に引き続き取り組むとともに、民間と行政の役割分担を整理する中で、コミュニティバスを充実させる ・買い物弱者対策としてわさだタウン・穂田市民行政センターを経由するコミュニティバスを運行 ・大通りまで出なくても良い運行ルートを構築 ・民間だけでは運行が難しいため、行政による支援が必要
	⑧	若者（学生）を対象とした創業支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・創業場所として空き家・空き地を安価で賃貸できる仕組みを構築し、若年層の流入による経済発展と空き家対策を併せて実施する
	⑨	空き家・空き地を活用した多世代家族の近居・同居
		<ul style="list-style-type: none"> ・団地内の空き地・空き家を活用し、多世代家族が近居・同居しやすい環境を構築 ・空き家バンク情報の活用など親世代との近居・同居に特化したマッチングを実施

提言2	⑩	農地の活用・保全
		<ul style="list-style-type: none"> ・市街化区域と市街化調整区域の区分変更や用途地域の変更を含めた見直し ・耕作放棄地に対して土地の利便性による優先順位をつけて見直す
	⑪	地域行事の活性化(市補助金の充実)
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の運動会など地域コミュニティの維持に寄与する行事開催に係る補助金の充実
提言3	⑫	ITスキルの向上(買い物弱者対策)
		<ul style="list-style-type: none"> ・買い物弱者対策として、地域の高齢者がインターネットショッピング等で買い物ができるようにITスキル向上のための講習会を開催
	⑬	七瀬川自然公園の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・河川プールの整備やBBQなどレクリエーション機能の充実、健康器具の設置等により、若者から高齢者まで、多世代が集いやすい環境を整備 ・地域の防災訓練が実施できる環境整備
	⑭	県民の森など自然環境の活用
		<ul style="list-style-type: none"> ・霊山一帯のウォーキングコースや川で、自然環境や水生生物の体験学習ができる環境を整備し、多世代交流を促進する ・種田地域の豊かな自然を有効活用できるよう環境整備に取り組む
	⑮	育児後の女性の職場復帰促進
		<ul style="list-style-type: none"> ・女性の育休からの職場復帰の促進を図る補助金の創設 ・こどもルームや一時保育の拡充 ・小中学校などで子どもをしっかりと預けられるような体制を整備
	⑯	子どもの教育環境の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・種田地区の老朽化した学校を、多様化する教育環境に対応した施設としてリノベーション及び改築を行う

3 提案事業の役割分担

前段の提案事業について、事業の提案者から、「私ができること」「地域でできること」、そして「行政に望むこと」の3つの視点で議論を行い、以下のとおり役割分担を整理しました。

番号	取組事業名	私ができること
①	生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・無縁墓地に対して「公示催告」の立て看板をたて、利害関係者に告示する
②	道路整備(渋滞の解消)	<ul style="list-style-type: none"> ・拡幅工事が行われる時に、特に該当する住宅・土地のオーナーの協力をお願いすること ・近隣の自治会に呼び掛けて協力を要請する <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握、調査 ・改善方法の提案
③	道路整備(安全安心な道路整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備(災害時等) ・道路整備への意見のとりまとめ
④	高齢者・障がい者等の防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声をとりまとめる ・行事、イベントに参加する <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練に参加 ・防災会議出席 ・マップの作成 ・要援護者名簿作成
⑤	住宅耐震化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性、重要性を班長会議などでPR ・市の補助事業内容をPR ・我が家の耐震補強した写真を配布し理解を求める
⑥	バリアフリー化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることは進んで参加 ・いざという時のためにご近所との付き合いは浅く広く ・いつも環境づくりに心がけ良い手本の大人でありたい ・食の大切さを地域の皆さんと進めていきたい
⑦	わさだ地区専用コミュニティバスの運行	<ul style="list-style-type: none"> ・バス等公共交通機関の積極利用 ・実現した場合の利用促進
⑧	若者(学生)を対象とした創業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の中から創業を考えている者を探す ・地区青年部との交流を図る ・若者に自分の経験を話す

地域でできること	行政に望むこと
<ul style="list-style-type: none"> 自治会近隣住民の協力を得る（体制費用の援助） 地域で会議（皆でどうするか相談） 墓周辺の整備に地域の人の共同作業をお願いする 定期的な作業を定着化する 	<ul style="list-style-type: none"> 保健所に相談して話を進める（法律に基づいて進めるための支援） 作業費等の行政支援（費用面）
<ul style="list-style-type: none"> 自治会で説明会等を開き、状況を理解してもらう 戸別訪問をして理解、協力をお願いする 	<ul style="list-style-type: none"> 道路拡幅と田尻橋の架け替えの両方を一緒にしなければ安全な道路にならないため、国と県と市が連携して対応
<ul style="list-style-type: none"> 実態調査 協議会の設立 	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察、交通量調査（実態調査） 関係機関との調整 国、県、市への要請 予算化、実施
<ul style="list-style-type: none"> 実態調査協議会の設立 協議会の設立、要望 	<ul style="list-style-type: none"> 計画化 予算化、実施
<ul style="list-style-type: none"> 市、県に要望する 広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 連合自治会長として行政（市・県）に要望 敷戸校区総意として市営、県営住宅群をエレベーター等利便性を考慮した建物への建替え実現
<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の開催 マップ、要援護者名簿の共有（自治会・消防・警察） 	<ul style="list-style-type: none"> 組織強化の指導 防災士の養成
<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性、重要性、市の補助事業の内容、耐震補強した写真を回覧及び月1回の清掃の際に班長から伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性、重要性、市の補助事業の内容、耐震補強事例などを市報などでPR
<ul style="list-style-type: none"> 大切な子どもたちに古いしきたり、命の大切さを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化に対する補助制度、支援
<ul style="list-style-type: none"> 校区ごとに必要路線の意見をまとめる コミュニティバスの必要性を行政へ要望 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物弱者対策としてわさだタウン・穂田市民行政センター及び最寄りのJR駅を経由するコミュニティバスを運行 大通りまで出なくても良い運行ルートを構築 民間だけでは運行が難しいため、行政による支援が必要
<ul style="list-style-type: none"> 若者が集まるイベントの開催 創業に興味がある若者に声をかける 青年部への参加を呼びかける 空き家・空き地の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 若者の創業者への助成金及び事業化支援 若者向けの創業関連講演会の開催

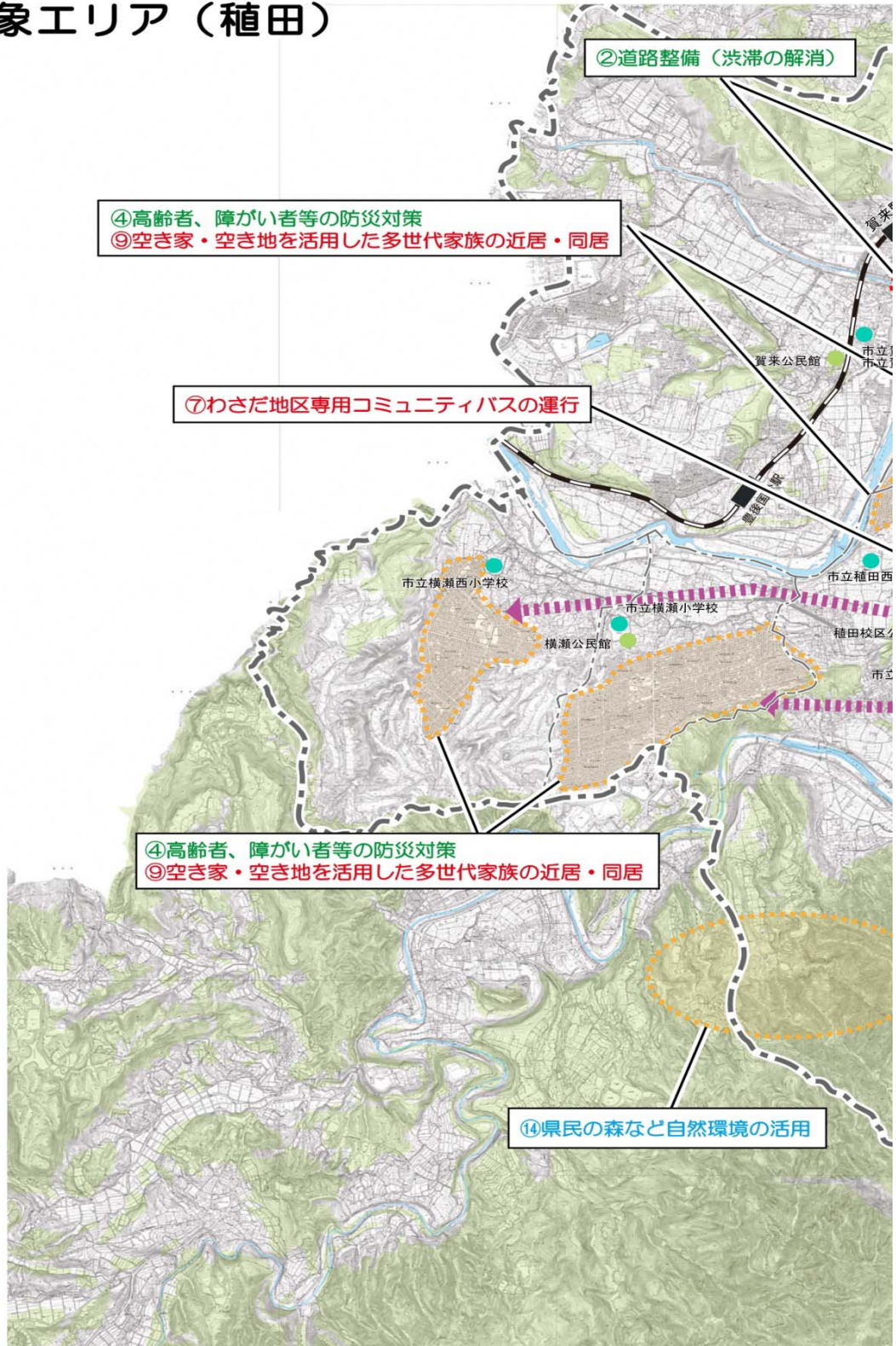
番号	取組事業名	私ができること
⑨	空き家・空き地を活用した多世代家族の近居・同居	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと近くに住みたいか聞く 職業上の関係者からの意識の聴取→（不安、希望）
⑩	農地の活用保全	<ul style="list-style-type: none"> 荒れている農地をできる限り保全の手伝いをする 行政への陳情 署名集め
⑪	地域行事の活性化(市補助金の充実)	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事（運動会、夏祭り、歩こう会）その他の行事（もちつき、どんど焼きなど）に積極的に家族で参加する
⑫	ITスキルの向上(買い物弱者対策)	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやインターネットについて学習する
⑬	七瀬川自然公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難場所としての整備 複合施設の建設、各種事業交流の場としての施設、植田公民館の移転 公園への交通アクセスの再検討 若者が集まる、魅力ある施設
⑭	県民の森など自然環境の活用	<ul style="list-style-type: none"> 世代交流ふれあい事業（かかし祭り、ホテル育成等）や、地区のウォーキング大会等への参加
⑮	育児後の女性の職場復帰促進	<ul style="list-style-type: none"> 青年団体等への広報、PR活動 短時間での就業を可能とする（育児中の女性）
⑯	子どもの教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への積極的な参加（PTA活動、美化活動等）

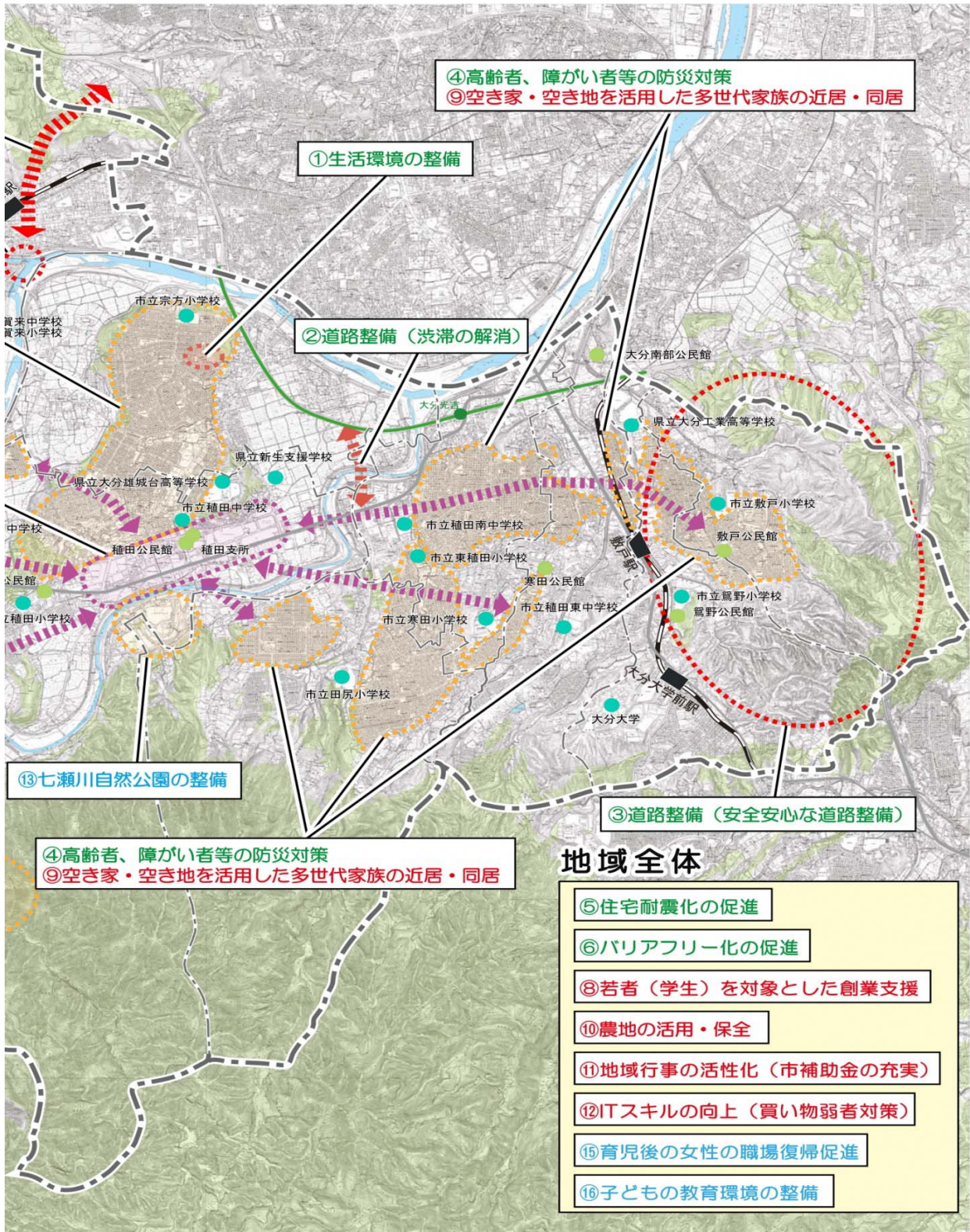
地域でできること	行政に望むこと
<ul style="list-style-type: none"> • 空き地、空き家の調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢世帯の空き地の情報開示
<ul style="list-style-type: none"> • 多世代近隣地区居住に対する意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域意識の伝達 • 団地等の居住空間の情報収集
<ul style="list-style-type: none"> • 地域全体で考える 	<ul style="list-style-type: none"> • 農業（水田、畑作）ができなくなった土地を行政が仲介する
<ul style="list-style-type: none"> • 農地を荒らさない、自然を守る 	<ul style="list-style-type: none"> • 市街化区域と市街化調整区域の線引きの見直し
<ul style="list-style-type: none"> • 地域の各団体（体協、社協、ボランティアなど）に協力を要請し実行委員になってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> • もちつき、歩こう会は市の「まちづくり活性化事業」で予算化されているが、運動会、夏祭りは地元商店、企業、介護施設などの協賛金でまかなっている。いくらかの補助があるとよい
<ul style="list-style-type: none"> • 自治公民館にインターネット環境の整備 • インターネットショッピングに詳しい方や講習会の開催について案内 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治公民館にインターネット接続を行う際にかかる経費の補助 • インターネットショッピング等のPCスキル向上のための講座開催
<ul style="list-style-type: none"> • 公園整備の立案、要望 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の避難場所としての整備 • 複合施設の建設、各種事業交流の場としての施設、植田公民館の移転 • 公園への交通アクセスの再検討 • 若者が集まる、魅力ある施設
<ul style="list-style-type: none"> • 地域まちづくり事業の企画、立案、PR • 学校との連携、協力 	<ul style="list-style-type: none"> • 霊山一帯のウォーキングコースや川で水生生物の学習ができるような体験学習ができる環境を整備し、多世代交流を促進する
<ul style="list-style-type: none"> • 出産→結婚→出会いと逆算して出会いの場を提供すること（お見合いパーティー等） 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもを産みやすい、育てやすい環境構築をPRし、人口増に努める （植田市民行政センター等に充実したこどもルームを継続し、一時託児所等の設置、育児または育児中の女性への補助金を助成する）
<ul style="list-style-type: none"> • 学校行事や環境整備への協力 	<ul style="list-style-type: none"> • 老朽化した学校を多様化する教育環境に対応した施設として、リノベーション及び改築を行う

4 提案事業の整理図

図一まちづくりの将来像図

事業対象エリア（植田）





- 地域全体**
- ⑤住宅耐震化の促進
 - ⑥バリアフリー化の促進
 - ⑦若者(学生)を対象とした創業支援
 - ⑧空き家・空き地を活用した多世代家族の近居・同居
 - ⑨農地の活用・保全
 - ⑩地域行事の活性化(市補助金の充実)
 - ⑪ITスキルの向上(買い物弱者対策)
 - ⑫育児後の女性の職場復帰促進
 - ⑬子どもの教育環境の整備



西寒多神社



塚野鉾泉



大分市歴史資料館



大分大学



トキハわさだタウン

資料編

1 策定経過

年・月	取組内容
平成29年5月17日	植田地域ビジョン会議 準備会議 植田地域ビジョン会議委員の委嘱
6月7日	植田地域ビジョン会議 第1回会議 植田地域ビジョン会議顧問の参画
8月9日	植田地域ビジョン会議 第2回会議
11月8日	植田地域ビジョン会議 第3回会議
平成30年1月17日	植田地域ビジョン会議 第4回会議
5月22日	植田地域ビジョン会議 第5回会議
7月2日	大分市地域まちづくりビジョン報告会 市長へ提言

2 植田地域ビジョン会議委員及び顧問、事務局名簿

植田地域ビジョン会議 委員17名

※敬称略

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	後藤 幸蔵	植田地区自治委員連絡協議会会長 植田校区会長
副会長	秦 和恵	賀来校区会長
	安東 幸吉	宗方校区会長
	品川 晴美	横瀬校区会長
	三宮 紘	東植田校区会長
	石崎 宏	寒田校区会長
	藤井 正三	敷戸校区会長
	寒倉 徳之助	鷺野校区会長 (鷺野まちづくり協議会副会長)
	半澤 一邦	大分市連合医師会在宅医療部代表
	西岡 裕治	大分商工会植田支所青年部
	池永 雅典	敷戸校区社会福祉協議会事務局長 (敷戸校区公民館長)
	淵野 絹代	賀来校区民生委員児童委員会会長
	定宗 瑛子	東植田校区民生委員児童委員会会長
	桜井 キヨ	食生活改善推進委員
	漆間 勝幸	ななせの火群まつり事務局長
	中谷 博之	大分ケーブルテレコム(株)社長
	安東 健治	大分市消防団第4方面隊隊長

() 内は兼職

植田地域ビジョン会議 顧問8名

※敬称略

役 職	氏 名	所 属 等
	高野 博幸	大分市議会議員
	安東 房吉	大分市議会議員
	足立 義弘	大分市議会議員
	堀 嘉徳	大分市議会議員
	倉掛 賢裕	大分市議会議員
	スカルリーパー・エイジ	大分市議会議員
	小野 仁志	大分市議会議員
	馬見塚 剛	大分市議会議員

植田地域ビジョン会議 事務局10名

役職	氏名	所属等
事務局長	塩手 祥是 (淵 万壽)	市民部審議監兼植田支所長 (市民部審議監兼植田支所長)
事務局次長	三重野 伴久	市民部 植田公民館 館長
	岩崎 伸吾	市民部 植田支所 参事
	尾上 典章 (下村 光典)	市民部 植田支所 参事 (市民部 植田支所 参事補)
	河野 浩	都市計画部 公園緑地課 専門員
	田崎 勝彦	土木建築部 土木管理課 参事補
	後藤 和正 (工藤 康彦)	商工労働観光部 創業経営支援課 参事補 (商工労働観光部 創業経営支援課 参事)
	衛藤 達郎	農林水産部 農政課 参事補
	秦 英司	企画部 企画課 参事補
	生野 宏樹 (大野 洋造)	企画部 企画課 主査 (企画部 企画課 主任)

※ () 内の表記は前任者・所属を記載。また、構成員の所属は、選任時のもの

3 大分市地域ビジョン会議設置要綱

（設置）

第1条 市民が思い描く地域の未来像であり、地域の特性を活かしたまちづくりの方向性についての市民の提言となる地域まちづくりビジョンを策定するため、地域ごとに地域ビジョン会議（以下「ビジョン会議」という。）を設置する。

（名称及び設置地域）

第2条 ビジョン会議の名称及び設置地域は、別表のとおりとする。

（所掌事項）

第3条 ビジョン会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1)地域まちづくりビジョンの策定に関すること。
- (2)地域まちづくりビジョンの市長への報告に関すること。
- (3)その他地域まちづくりビジョンの策定に関し市長が必要と認める事項

（組織）

第4条 ビジョン会議の委員は、25人以内とし、次に掲げる者のうちから市長が参画依頼する。

- (1)各種団体の代表者
- (2)校区会長
- (3)学識経験を有する者
- (4)その他市長が必要と認める者

（参画依頼の期間）

第5条 参画依頼の期間は、参画依頼の日から第3条に掲げる所掌事項が終了する日までとする。

（会長及び副会長）

第6条 ビジョン会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

- 2 会長は、ビジョン会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第7条 ビジョン会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- 4 会議は、原則公開とする。ただし、会長が必要と認める場合は、会議に諮

って、これを公開しないことができる。

（部会）

第8条 ビジョン会議は、地域内における特定の地区及び事項について調査、研究等を行うための部会を設置することができる。

2 部会は、会長の指名した委員を部会員として組織する。

3 部会に部会長を置き、会長の指名する委員をもって充てる。

（顧問）

第9条 ビジョン会議ごとに顧問を置くことができる。

2 顧問は、市議会議員とする。

3 顧問は、ビジョン会議からの要請に基づき、市長が参画を依頼する。

4 顧問は、ビジョン会議に対し助言を行うことができる。

（報償金等）

第10条 委員に対する報償金等は、予算の範囲内で、市長が決定し、これを支払うことができる。

（事務局）

第11条 ビジョン会議の庶務を処理するため、ビジョン会議ごとに事務局を置く。

2 事務局の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

（その他）

第12条 この要綱に定めるもののほか、ビジョン会議の運営について必要な事項は、会長がビジョン会議に諮って定める。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、平成29年4月17日から施行する。

（この要綱の失効）

2 この要綱は、第3条に掲げる所掌事項が終了する日限り、その効力を失う。

別表（第2条関係）

名 称	設置地域
大分中央地域ビジョン会議	大分中央公民館の所管区域
大分西部地域ビジョン会議	大分西部公民館の所管区域
大分南部地域ビジョン会議	大分南部公民館の所管区域

南大分地域ビジョン会議	南大分公民館の所管区域
大分東部地域ビジョン会議	大分東部公民館の所管区域
鶴崎地域ビジョン会議	鶴崎支所の所管区域
大南地域ビジョン会議	大南支所の所管区域
植田地域ビジョン会議	植田支所の所管区域
大在地域ビジョン会議	大在支所の所管区域
坂ノ市地域ビジョン会議	坂ノ市支所の所管区域
佐賀関地域ビジョン会議	佐賀関支所の所管区域
野津原地域ビジョン会議	野津原支所の所管区域
明野地域ビジョン会議	明野支所の所管区域

(備考) 公民館の所管区域のうち、支所の所管区域は除くものとする。



将来像

自然があふれる 住みたくなるまち わさだ

植田地域ビジョン会議